

インフラメンテナンス国民会議の創設(青写真)

- 幅広い業種からの新規参入を促進し、メンテナンス技術の分野での生産性革命をおこす。
- 国民会議が伴走するコンサルタントの役割を担い、技術開発を促進するオープン・イノベーションの導入、自主的な勉強会・交流会の活動を支援する公認フォーラム制度等の導入、海外展開等を通して、ビジネスを最大化。
- インフラメンテナンス大賞(仮称)の創設等により、メンテナンス分野の取組を周知し、国民へのメンテナンスの理念の普及を図る。

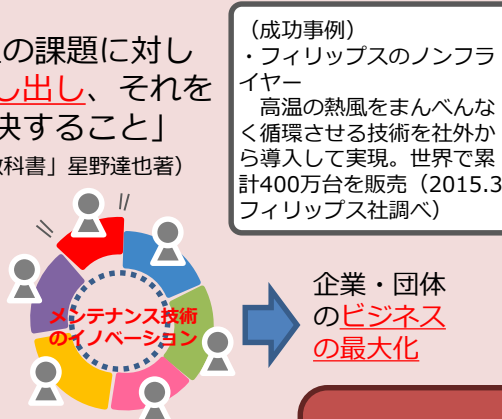
戦略1 インフラメンテナンス分野における技術開発の生産性革命(オープン・イノベーションの導入・推進)

オープン・イノベーションとは (背景) 自前主義の限界、知識労働者の増加と分散

- 「企業内部と外部のアイデアを有機的に結合させ、価値を創造すること」
(2003年 ハーバード大学ヘンリー・チェスブロウ教授(当時))

- 「メーカーが自社のみでは解決できない研究開発上の課題に対して、既存のネットワークを超えて最適な解決策を探し出し、それを自社の技術として取り込むことによって、課題を解決すること」
(「社外の技術でビジネスをつくる実践ステップ オープンイノベーションの教科書」星野達也著)

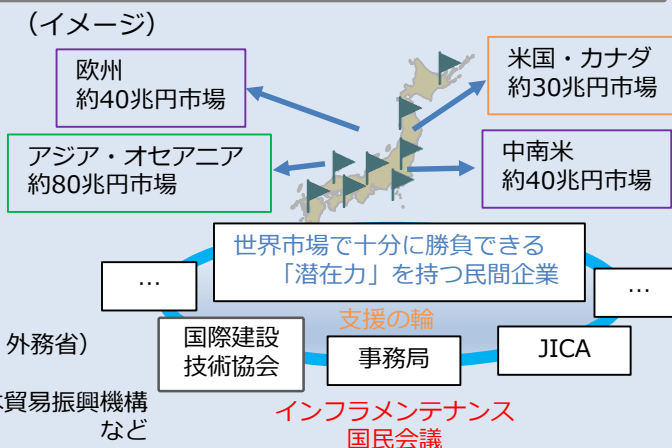
- ◆インフラメンテナンスの分野でオープン・イノベーションを導入し、技術開発のスピードアップを図る。
- ◆インフラメンテナンス国民会議がオープン・イノベーションを行う場を提供し、活動に伴走しながら企業の取組を支援。必要に応じ、資金調達についても支援。



戦略3 200兆円巨大海外市場への挑戦(インフラメンテナンスの海外展開)

- ◆海外展開を狙うメンテナンス技術を英訳して世界に発信
- ◆国際規格(ISO等)の認証取得推進
- ◆有望な市場での二国間会議の活用や技術展等への参画推進
- ◆関係機関による連携支援

- (例) ・海外展開一貫支援ファストパス制度(経済産業省、外務省)
・中小企業海外展開支援施策集(中小企業庁)
・中小企業海外展開現地支援プラットフォーム(日本貿易振興機構など)



戦略4 メンテナンス技術の限界突破(技術コンペの実施)

- 単純・明快な技術レベルを設定し、コンペを実施

(コンペの流れ)

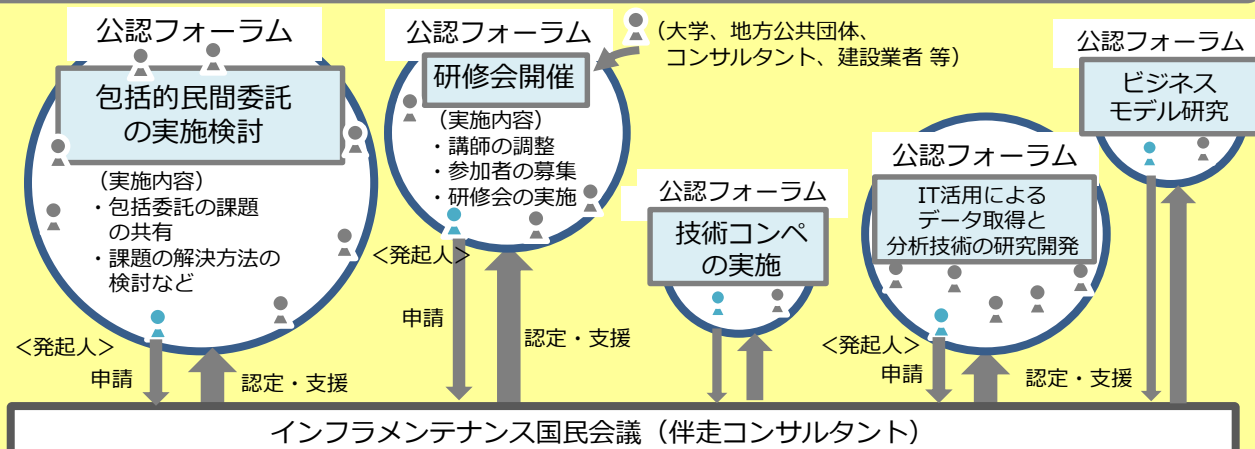
- ・コンペのテーマを公募で決定
- ・参加者募集
- ・公開の実証審査で技術を競う

(例) 5時間、250km飛行するドローン



戦略2 ビジネスチャンスの創出(公認フォーラム制度導入)

- インフラメンテナンスに係る自主的な勉強会・交流会(フォーラム)を国民会議が一定の条件で認定し、活動を支援
(認定条件の例) 目的、フォーラム開催回数、参加人数 など
(支援方法) 必要な情報の提供、活動資金調達の支援 など



インフラメンテナンス国民会議の5つの戦略

戦略5 メンテナンスのメジャー化(表彰制度の創設)

- インフラメンテナンス大賞(仮称)の創設
 - ・表彰対象 : インフラメンテナンスにかかる特に優れた取組・技術開発(ベストプラクティス)
 - ・表彰の種類 : 内閣総理大臣賞(未調整)、国土交通大臣賞等
- メンテナンス技術の活用促進
 - ・NETISに登録されている優れたメンテナンス技術などを積極的に活用

(表彰スケジュール案)
H28年 秋頃 創設
募集
審査
H29年 決定・表彰式